

1. 内政

- ・22日、ヴォローニン共産党党首は、クリミアと沿ドニエストル地域に共通点はなく、クリミアの例が沿ドニエストルでもうまくいくわけではない旨発言。
- ・23日、ブルラ「沿ドニエストル共和国」最高会議議長は、ウクライナの出来事が同「共和国」の貿易や人の移動等に悪影響を及ぼしている旨発言。
- ・24日、自由党はガガウズ自治区首長が内閣に参加することを明記した1994年の法律及び大統領令に欧州地方自治憲章との矛盾がありうるとし、憲法裁判所に提起。これを受け、ブルフジ・ガガウズ自治区議会司法委員会代表は、ガガウズ首長の右地位が剥奪された場合、ガガウズはモルドバから脱退するだろう旨発言。
- ・24日、レアンカ首相は、パスカル米大使と会談し、モルドバのルーマニアを通じたEUとのエネルギー・システム相互接続の計画について議論。レアンカ首相は、右計画が政府のエネルギー安全保障における優先課題である旨発言。
- ・25日、自由党は、モルドバのCIS脱退法案を国会に登録。また26日、自由改革党も同様の法案を登録。
- ・26日、ガガウズ自治区は、本年秋に同地区の地位を問う住民投票を行う予定である旨発表。

- ・27日、ゲルマン外務・欧州統合相は、EUのロシアに対する制裁には参加しておらず、ウクライナの前政権高官に対する制裁を支援したのみである旨発言。
- ・28日、共産党は、政府が議論を経ずにEUのウクライナ前政権高官に対する制裁に参加したとし、最高会議に不信任案を登録。

2. 外政

- ・22日、ロゴジン露副首相は、モルドバがEU及びNATOに加盟しても、沿ドニエストルが共に加盟することはないだろう旨発言。
- ・24日、ポンタ・ルーマニア首相は、沿ドニエストルの問題が解決しない限り、モルドバはEUにもNATOにも加盟はできないだろう旨発言。
- ・24日、コザーク露副首相は、ロシア政府において沿ドニエストル編入の議論はなされていない旨発言。
- ・24日、メルケル独首相は、ロシアによるモルドバの不安定化は許されない旨発言。
- ・26日、トスク・ポーランド大統領は、現在ガガウズ及び沿ドニエストルで起きている出来事は、モルドバの歴史における深刻な問題が起こりうることを示している旨発言。

※本週報ではモルドバの首都名「キシニョフ」(ロシア語読み)を暫定的に「キシナウ」(モルドバ語読み)と表記しています。(了)